



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第三二〇号）

清明

四月四日

## 逢鹿瀬廃寺

宮川中流の左岸に、多気町相鹿瀬という地区があります。難しい地名ですが、「おうかせ」と読みます。玉城町田丸から熊野三山へ向かう熊野古道の最初の峠、女鬼峠を下ったところにある集落です。

ここに奈良時代の八世紀、「逢鹿瀬寺」という寺があったとされます。多気町歴史資料館で、寺跡から採集された古瓦を見せてもらいました。黄土色に焼かれた瓦は、軒丸瓦と軒平瓦の二種類。丸い形をした軒丸瓦には、八枚の蓮花の文様（単弁蓮華文）が、そして、平らな軒平瓦には、唐草文がしっかりと付いていました。その精緻なことに驚きました。

文化財保護指導員に伺うと、この瓦は近くで製造されていること、奈良時代、伊勢神宮に最も近い寺であるということでした。そのため、伊勢神宮内宮の伊勢大神宮寺ではないかと考えられています。伊勢大神宮寺については、『続日本紀』という文献の七六六年に「使を遣して丈六の仏像を伊勢の太神宮寺に造らしむ」とあります。丈六の仏像とは、一丈六尺（約四・八メートル）の仏像のこと。坐像なら、半分の八尺のものをいいます。

明治初めに、神社と寺を分ける神仏分離令が出された今とは異なり、かつては神社と寺が同じ敷地や近くに建っていたのです。伊勢神宮にも奈良時代、大神宮寺があったのです。

相鹿瀬の地に行くと、のどかな田園風景が広がっていました。その一角に、「逢鹿瀬寺」と刻まれた小さな石碑を見つけました。千二百年前は、ここにお寺が建ち、大きな仏像が置かれていたのでしょうか。古代ロマンを誘う里の風景です。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 五十鈴川の桜

新緑の朝熊山を背景に、対岸の桜をお楽しみください。  
日没からは夜桜のライトアップでしっとりとお花見していただけます。  
五十鈴川の桜と一緒に、うらかな春のひとつときをお過ごし下さい。

と き / 4月上旬  
ところ / 五十鈴川河畔

## ● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川新橋周辺の夜桜をライトアップします。  
風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみいただけます。

と き / 満開の頃 19:00～21:00  
※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しください。

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

はないかだ  
花筏

川面に舞い降りた桜が、岸辺に着かず離れず、筏のように浮かび、流れにまかせて漂い続ける。古人がその景色に見惚れ、詠んだ言葉が花筏。粒餡を求肥で包み、その上に桜の姿をとどめて、花のなごりに心を残す思いをこめました。

じんぐう  
神宮つつじ

かの西行が、神路山の岩根に見たという、つつじ。今年も神宮の一画で、そのつつじが花を咲かせます。木々の緑と、赤いつつじが見せる鮮やかな色彩の対照を、きんとんで表現しました。

こちよう まい  
胡蝶の舞

神宮では神恩への感謝とともに、民福を祈念するため、毎年四月、春の神楽祭が行われます。神苑に朱塗りの舞台をしつらえ、古式ゆかしく演じられる『胡蝶の舞』。その装束の美しさを、白餡と羊羹を使い、お菓子のかたちに写し取りました。

五十鈴塾

## ○ 「春風香」を楽しむ

「春風のこほりふきとく 川岸の冬木の柳 色つきにけり」 藤原家良  
春風を感じる季節、三つの香り「冬木の柳（スモタラ）」「川岸（マナカ）」「春風（キャラ）」、それぞれの香りを優雅に聞きわけて、「春の芽生え」を楽しみましょう。

奥深く神秘的な香りを放つお香には、香りを楽しむだけでなく、さまざまな効果があることがわかっています。時には人生を大きく変えるほどの力になってくれる香り。前向きなパワーを取り込んで、より質の高い暮らしを送りましょう。

と き / 4月10日（金） 18:30～20:30

講師 / 東 堯霞（香道御家流三條西宗家直門師範）

参加費 / 一般5,800円 会員5,300円

（香筵料・食事代・和菓子代含む）

集 合 / 五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251